

さくら

題字 足立区長 近藤 やよい

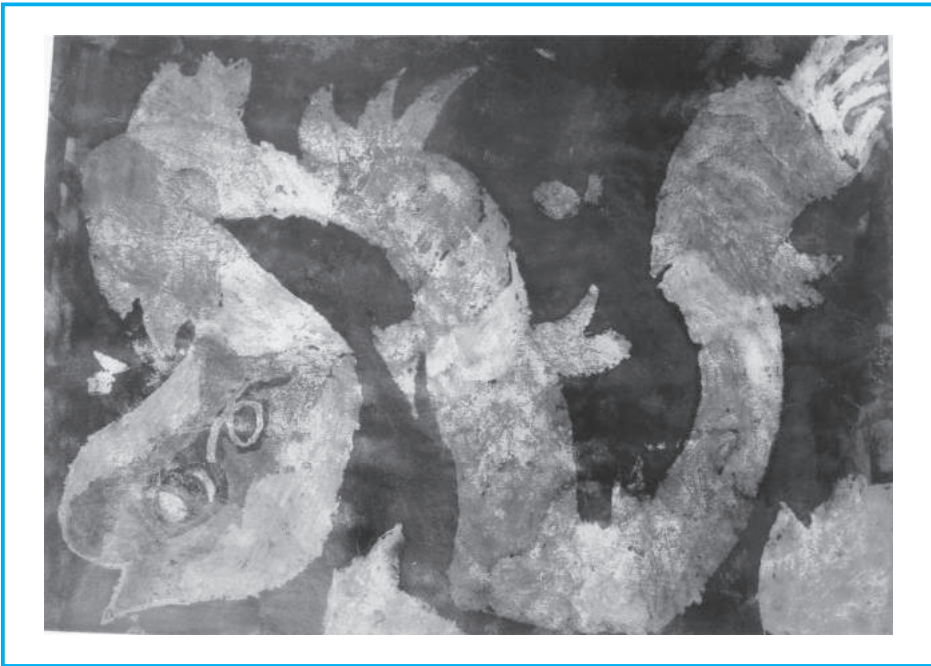
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 宮崎 十三
編集 広報委員会
発行日 2014年7月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870

目次

民生・児童委員PR週間	2
作品感謝状贈呈式	3
合同会長紹介	5
こころの健康フェスティバル	6
団体名シリーズ	6
子育て応援団	7
社会福祉協議会挨拶	8



東伊興小3年 茂木香月 作 「色がかかったふしぎな魚」



ごあいさつ

福祉部長 橋本 弘

4月1日付けの人事異動で、福祉部長として異動してまいりました。

地域のなかで人と人の繋がりが希薄化する今日、民生・児童委員の皆様はあふれる熱意と使命感を持って、地域の問題解決に最大のご尽力をいただいております。心から御礼申し上げます。

一方、社会福祉を取り巻く環境は生活保護法や介護保険法の改正、生活困窮者自立支援法の制定など大きく変化している時期だと思っております。足立区の地域福祉の進展のため、民生・児童委員の皆様と課題を共有し、区民福祉の増進のため、車の両輪のように進むことができれば幸いと思っております。



お世話になりました

前福祉部長 西野 知之

3月31日をもって定年退職を迎えました。福祉部長在任中に賜りました民生・児童委員の皆様のご指導、ご鞭撻に、改めて御礼申し上げます。誠に、ありがとうございました。

福祉には様々な課題がございますが、これらを解決するためには、地域の事情に精通し、ボランティア精神に溢れた民生・児童委員の皆様のお力が不可欠であることを、改めて実感した3年間でありました。

これからは、私自身も一住民として、地域社会に何か少しでも貢献しなければと考えているところです。

結びに、宮崎連合会長、飯塚会長職務代理、中田特別顧問をはじめ民生・児童委員の皆様のみますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



5月12日(月)～18日(日) 民生・児童委員の日PR週間



5/12(月) 開会式



ミンジーも活躍しました。

5/17(土) オープニングセレモニー



瀏江中学校吹奏楽部演奏

今回は、足立区立瀏江中学校吹奏楽部の皆さんに演奏して頂きました。

演奏前「私たちは大会において金賞をとれるよう、頑張っています」とのたのもしい挨拶がありました。そして、あまちゃんの軽快なオープニングテーマに始まり、4曲を演奏。アンコール曲は、カーペンターズの「トップ・オブ・ザ・ワールド」でした。ホールに響き渡る演奏が終わると、盛大な拍手の中、終演となりました。

(広報委員会 記)



17日(土)庁舎ホールにて、近藤やよい区長を始め多くの御来賓参列のもと、オープニングセレモニーが開催されました。

区長から、「生活保護から始まった民生・児童委員の仕事は昨今多岐に広がり、その重要性はますます高まっております。行政も広報で紹介するなど力を入れていますが、なかなか一般区民にその活動を周知できません。民生・児童委員の皆様が自発的に啓発なさっている事に敬意を表すと共に、その活動に今後も期待しています」と、挨拶を賜りました。来賓紹介では、はるばる福島県から参列下さった相馬市社会福祉協議会会長只野裕一様が「震災時より多くの支援有難うございます」と感謝の気持ちを述べられました。

民生児童委員の職務を改めて心に刻む式典でした。

(広報委員会 記)

映画「旅立ち」 上映会

この映画は、茨城県小美玉市小川民生委員児童委員協議会が「民生・児童委員の活動を市民にどうPRするか」の協議から、「今は映像でPRする時代」と一致し、構想から2年近くかけ完成しました。

親との不和から非行に走った青年に民生・児童委員が寄り添い、未来に希望を持って「旅立つ」までの映画です。NHKの「サイレントプア」というドラマで

は、社会福祉協議会の職員が主人公となっており、そういう存在を知らない人に知ってもらうのに、映像がどれほど役に立つことかと感じました。この映画製作のご苦勞に拍手を贈りたいと思います。

(広報委員会 記)



5/18(日) 民生・児童委員活動普及・啓発パレード



五月晴れの5月18日(日)東京都民生児童委員連合会主催『民生・児童委員活動普及・啓発パレード』が、都内各地区からの民生・児童委員代表1,250名余の参加により開催されました(足立区から36名参加)。

警察音楽隊・交通少年団鼓笛隊・各地区の着ぐるみ隊とともにPR活動を行いました。今年は、宮崎連合会長も参加し、一致団結して、笑顔でバンダナを振り、新宿のメインストリートを行進しました。

(広報委員会 記)



さくら 絵画・俳句の感謝状贈呈式



当紙『さくら』は、小学生の絵画、中学生の俳句を毎号掲載しています。作品はとかく堅くなりがちで紙面を温かな仕上がりに導きます。そんな作品に感謝と敬意をこめて感謝状贈呈式が執り行われました。

感謝状を受ける皆様には開始1時間前に集合いただき、当日庁舎は休日のため職員の誘導で12階会議室にて待機。保護者の方も同行くださって「バックヤード

ツアーみたいね」と、ふだん通らない人気のない区役所の廊下などを珍しそうに眺めておられました。待機中に感謝状の受け取り方等を練習して、舞台へ向かいました。

プレゼンターは区長。皆さん緊張した面持ちでしたが、受け取った後は笑顔で客席に挨拶されていました。(広報委員会 記)



足立消防署からも区民ロビーの展示に、ご協力いただきました。

民生ふれあいコーナー



お困りごとの相談コーナーでは1週間で32件の相談を受け、地区の民生児童委員や行政窓口につなげました。

相馬市物産品販売



PR週間も終盤の17日、相馬市の野菜・特産品販売会の応援に相馬市社会福祉協議会会長の只野裕一様がお見えになりました。

販売開始前の売り場で、担当の方々に挨拶とお礼をされ、ご自慢の品を手に取り、皆さんと歓談されていました。

その時すでに50人程の行列ができていました。大盛況のうちに販売会は終了しました。(広報委員会 記)



手話ミニ講座

指文字・筆談・空書などを実際に、やってみました。「いろいろなコミュニケーションを体験しよう、大事なのは目を見て心から話す事！」



手話通訳者で民生・児童委員でもあるお二人と聴覚障がい者の方のやりとりが巧みで、あっという間の楽しい1時間でした。

(広報委員会 記)

お疲れさまでした PR 実行委員の皆さん



実行委員長	山本 祥一	(敬称略)	
副実行委員長	小金井 堅治		
アドバイザー	根本島 大雄		
高木 真由美	梶本 三重子	松島 勝己	野間 一夫
村田 晴子	小林 勝子	梶 宏次	浅古 有文
谷茂岡 昭	大熊 園江	鈴木 静江	仲崎 弘子
北島 小夜子	榎本 のり子	一条 正子	細田 慶子
高橋 典子	小宮 久美子	小口 よし子	小島 千恵子
藤田 妙子	高田 正明	関根 恵子	首藤 広行
栗野 昌子	山崎 道子	高橋 登志子	



合同会長紹介



第一合同 平林治 会長

2004年12月1日、民生・児童委員となりました。初の会合で、会長に選ばれたのは私がただ一人の男性であったからではないでしょうか？ 以来9年間3期、地区会長を務め、4期目には、合同会長の大任までお任せつかりました。腰が悪くまともに歩けない私が、皆を束ねる自信はないと辞退しましたが、強く推されてお

引受けすることとなりました。

お引受けしたからには、ひとつの覚悟を持って事に当たりたいと思っています。民生・児童委員になって強く感じたのは、皆さんの優しさ、各々の能力の高さです。しかし、足立区に生活保護家庭の多い実情を強い心で受け止め、優しさの中にも厳しさを持って各自の能力を生かし、真の解決策を模索しながら、この任にあたっていくことが必要なのではないかと考えています。



第二合同 小久保隆 会長

この度はからずも、民生・児童委員第二合同会長に指名をうけました小久保隆と申します。第二合同は、4つの地区から構成されています。任期満了で退任なさる方々もおり、再任で多少勝手のわかっている私が選ばれたのかと思います。もっと適任の方もおられるのに、心苦しいばかりです。

前合同会長で現OB会会長の吉田氏、元合同会長の猪俣氏には遠く及びませんが、与えられた任務を任期一杯務めてゆく所存です。足立区の民生・児童委員は、中田特別顧問の類いまれなリーダーシップのもと多くの改革がなされ、東京一・日本一の民児協に育っています。民生・児童委員一人一人の意識も自覚も大いに高まりました。その任は、近年少子高齢化の影響で重大さを増しております。至らぬ点だらけの私ですが、いっそうのご指導をお願い致しまして、挨拶とさせていただきます。



第三合同 堀口勝廣 会長

私たち第三合同地区は、荒川の北側東武線梅島・五反野駅周辺にあって古い一軒家・アパートに新しいマンションが混在する地域です。そこには、子ども、若いひと、お年寄り等いろいろな人たちが住んでいます。

生活は必ずしも豊かな人ばかりとはいえませんが、まだ人情味もあり、何かと隣人の事を気にかけてくれる人も居て、住みやすいまちだと思っています。

しかし近年は、こういう気風も少しずつ変わってきています。

社会の変化に伴い、世上言われている家族や地域の絆の希薄化や他の理由で子どもに対する虐待、お年寄りの孤立化・孤独死など厳しい現実も生まれて来ています。

この様な状況の中、私たち民生・児童委員に課せられた役割はなにか、言葉では「住民の相談役」「行政との橋渡し役」など、決まり文句が出て来ますが、問題はこれをどう実践に結びつけて行けるかが鍵だと思っています。

これから、第三合同の皆さんと一緒にこの課題を考え、問題の解決に当たって行きたいと考えています。

平成 25 年度 各種表彰受賞者祝賀会

平成 26 年 1 月 28 日東京マリアージュにおいて足立区民生・児童委員協議会各種表彰受賞者祝賀会が開催されました。

受賞は瑞寶単光章叙勲者である宮崎十三連合会長を始め、厚生労働大臣表彰、東京都知事表彰、足立区功労者他多岐に亘る 124 名でした。前出の宮崎連合会長の挨拶に始まり、近藤やよい区長、あかし幸子区議会副議長、福田豊術東京都民生児童委員連合会会長、各氏より祝辞を頂きました。区長は「日頃の献身的な活動を思えば受賞は当然だと思いますが、この様に多くの方が受賞されたことは区としても大きな誇りです。」との祝辞に加え、平成 27 年度生活困窮者自立支援法施行

にあたり足立区がモデル地区として 2 年早く実施する事が報告されました。

受賞者は各受賞毎に呼名を受け登壇し、区長と一緒に記念撮影しました。その後、乾杯歓談と進み、佐野地区藤田妙子さんから素晴らしい歌声を披露頂き、和やかな内に閉会となりました。

(6 地区 田中礼子 記)



訂正とお詫び

さくら第 34 号 8 ページ「ぶらり足立」の記事中、「常磐線荒川鉄橋北側風景（出典『写真で見る足立の歩み [2007]』）」とご紹介した写真は、正しくは、「西新井橋北側（写真は足立区郷土博物館所蔵）」でした。関係者の皆様にご迷惑をおかけしてしまいましたことをここに深くお詫び申し上げます。



合同会長紹介



第四合同 齋藤武次 会長

国民を幸せにするには、「教育と政治だ」という一文を読んだことがある。

教育を行うことによって、人が将来自立した生活を得られるようにする。身を立て世に出て豊かになる。勉強して自分のことは自分で処することができるようにする。

とは言っても、ハンデを背負った人も居る。その人たちには政治の助けがある。その手段には政治が直接に行うものと、間接的に行うものがあると思う。教育や生活保護などは直接の手段になるだろうし、民生・

児童委員制度などは間接的な手段に入るのだと思う。

民生・児童委員制度は、「互いに助け合ってほしい」という、政治から民間への委託だ。それは、民生・児童委員信条にも表れていると思う。「わたくしたちは隣人愛をもって社会福祉の増進に努めます」とある。

このように教育によって、自分のことは自分で助ける「自助」、民生・児童委員などの民間によって助ける「共助」、政治の助け「公助」、これらが機能して国民を幸せにする。民生・児童委員制度は国民を幸せにする「共助」だと思う。合同会長に就任してそんなことを考えています。



第五合同 飯塚茂 会長 (会長職務代理)

今期12月1日より、宮崎前会長職務代理の後任となり、身心共に身の引き締まる思いでございます。

これから宮崎連合会長の補佐役として、微力ながら精一杯後押しして参りたいと思います。

社会環境の大きな変化の中で、民生・児童委員としても信条に有ります様に、“常に地域社会の実情を把握し”、“健全な地域社会づくり”をめざしていきます。民生・児童委員活動を自分自身を磨く最高の場所として、皆様方の環境づくりのお手伝いのできればと考えております。

行政を含め各委員の方々のご協力を宜しくお願い申し上げます。



第六合同 山本祥一 会長

30年前初めて民生委員の委嘱をお受けた当時でも「日本の将来の少子高齢社会の到来」は予測されていたと思いますが、私の住む担当地域はまだ市街地化への途上にあり、家屋も増え、子ども達も大勢いました。しかし、今は徐々にまちのなかから商店も減り、子ども達の減少とともに核家族化し、共にまちづくりした人達も高齢夫婦世帯や一人暮らし世帯として目立つように

なり、少子高齢社会の到来を感じさせるまじに変容してきました。

このような変容と、個人主義的意識が相まって家族や地域の絆が弱まりつつあると思うのです。このような地域の様相の変容の中で、孤立しない孤独にさせない地域を目指した時、地域における「新たな支え合い」の創出が必要となります。日頃同じ場所で縁あって一緒に暮らす人達と「おたがい様」の気持ちで、安心して住みよいまちづくりに向けて努力していきたいと思っています。

おことわり

宮崎十三 第七合同会長（連合会長）のあいさつは、前号の巻頭で掲載いたしました。

2/25 宮崎連合会長 叙勲祝賀会

宮崎十三連合会長が、昨年11月瑞寶單光章を受章、平成26年2月25日浅草ビューホテルで祝賀会が開催されました。発起人代表である中田貢弘特別顧問を始め、御家族、町会・自治会、足立区民協、都民連、足立区役所より198名の方々がお祝いに集いました。

近藤やよい区長他たくさんの来賓よりの御祝辞、宮崎連合会長への記念品の贈呈、その後のお孫さんからの花束贈呈ではおじいちゃんのお顔になっていました。

宮崎連合会長の謝辞は「36歳で、民生・児童委員を引き受け、長い間には苦しい事もあり、何度辞めよう

と思ったか。それでも、後に続く人たちのことを考えると、今ここで踏ん張り続けなければ、と思いましたが、これからは、新たな気持ちで体の続く限り、民生活動を続けていくつもりです」との、頼もしいお言葉でした。

祝福に満ちた素晴らしい宴でした。

(9地区 秋本雅信 記)



広げよう 地域に根ざした 思いやり



3/1 こころの健康フェスティバル



3月1日、足立区主催の「第18回こころの健康フェスティバル」が開催され、民生・児童委員協議会では、恒例となったバザー出店で協力をしました。暖かな前日から一転し冷たい雨が降り、来場者は前年よりやや少なめでした。

バザーは実行委員の運営と努力で55万円を上回る売り上げがあり、募金と合わせて60万円近い金額を足立区社会福祉協議会に寄付しました。

庁舎ホールでは、主催者開会挨拶のあと、第26回全日本マーチングコンテスト中学の部で金賞受賞した、区立第十一中学校吹奏楽部の演奏に大きな拍手とアンコールの聲が寄せられました。



午後から、毎日新聞社論説員の野澤和弘氏から「障がいのある人もない人も、若い人も、共に暮らせるまちを目指して」と題して講演が行われました。

障がいのある家族と暮らしを共にし、新聞記者として取材活動を通じて得られた施設の現場、まちづくりの様子など、スライドを駆使してテーマに即して話されました。



特に、ある企業では「障がい者は仕事のテンポは遅いが、一生懸命な姿が他の従業員の刺激となり、収益も上がっている。」「障がい者も自分の役割が自覚でき生き生きしてくる」と話されました。また、ある介護施設で、認知症の方々が学童の通学路を散歩道にして、子どもと交流するようになり生き生きしてきた例も紹介されました。

こころの病は、誰もがいつ発症するかわかりません。その人たちを理解して地域で暮らせるまちづくりが大切だと講演を聞いて痛感しました。

(3地区 秋葉千秋 記)

団体名シリーズ5 ボランティア連合会

足立区ボランティア連合会は昭和59年12月社会福祉協議会（以下社協）に登録された6団体、個人10名のボランティアによって発足し、現在では、21団体、個人9名の総勢700余名のボランティアで構成しています。

活動としては、足立区のボランティア活動を推進、活性化するために、①ボランティアまつりの開催②研修会の開催③ボランティア同士の交流④障がい者週間やタートルマラソンなどのイベント支援⑤広報紙「手と手」発行⑥男たちのボランティアの開催⑦行政・社協からの要請による委員会等への参加などです。

当会は、福祉をはじめ、教育、環境、演芸など、様々な分野で活動しているボランティアの連合体であり、様々な特技を持った個人団体が登録しています。三年前の東日本大震災の際は、この足立区内のボランティアネットワークを活用し、社協と連携して、募金活動、支援物資の収集・仕分け、東京武道館での大型紙芝居のボランティアなどを行いました。

この秋に当会は設立30周年を迎えます。30年前はボランティアというと、「美徳」「献身」「余裕のある人の道楽」などというイメージを持たれていたこともありましたが、阪神・淡路大震災や東日本大震災を経

験し、ボランティアへの意識が一気に高まってきました。このことは、結成当初から関わってきた者としては、隔世の感があります。

今後は、当会のボランティアが地元に戻り自分たちの技術や活動を身近な地域に還元していけるような取り組みや、「向こう三軒両隣」の意識を持ったボランティア活動を推進するなど、時代を見据えた会の運営も必要であろうと思います。

今後は、民生・児童委員協議会とのますますの連携、協力の必要性が考えられますのでご指導の程よろしく申し上げます。

(足立区ボランティア連合会会長 緑川フミ子 記)



足立区は活動記録提出率 100% 継続中です



子育て応援団



都立六本木高等学校を訪問して

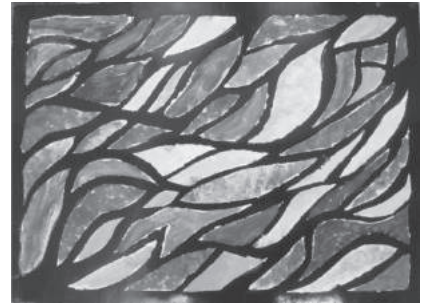
平成 25 年 9 月 24 日、主任児童委員 33 名で六本木ヒルズに隣接するチャレンジスクール「六本木高等学校」を訪問、校長先生の学校説明の後、校内見学を行いました。そこでは多くの生徒と接し、生き生きと学校生活を送っている様子を目のあたりにしました。

不登校を経験した生徒や高校を中途退学した生徒を含め、これまでの教育において自己の能力や適性を十分生かしきれなかった生徒が対象の学校です。生徒総数は 511 名で、3 部制・総合学科・単位制という特色を生かして、自らの目標を見つけ、その実現に向けてチャレンジする学校です。

現在、都立高校チャレンジスクールは 6 校あり、入学選抜は作文・面接で行なわれ、学力検査はありません。

例年約 2.5 倍の高倍率で、希望者全員が入学できないのが大変残念です。

主任児童委員は中学校への不登校生徒と接する機会が大変多く、進学への貴重な情報源のひとつになりました。今後の活動に生かして行きたいと思いました。



保木間小 5 年 範田征弘 作

(主任児童委員会委員長 小宮謙治 記)

邦楽の取り組み 亀田小学校

1 月末、亀田小学校の体育館では「邦楽鑑賞会」が開かれました。ここに至るには、足立区三曲協会の嵯峨寿子葉先生、尺八の森英山先生のご協力なくしては成り立ちません。毎週火曜日の放課後、本校の課外活動として、4 年生以上の希望者が箏曲部・尺八部でお二人の先生の指導を受けています。

本校の「邦楽鑑賞会」は、これまで 14 回を数えました。開催に至るまでには、保護者や地域の方々の協力も欠かせませんでした。また、開かれた学校づくり協議会の共催ということで、地域に根づいた行事にもなっており、当日は地域の皆様も体育館に足を運んでくださいました。

本校の特色のひとつである邦楽課外活動や邦楽鑑賞

会は、多くの方々に支えられているからこそ継続できている行事です。学校は地域の中にあり、地域の中で生きていくものです。今後とも、亀田小学校の教育活動を見守り、ご協力・ご声援いただければ幸いです。



(亀田小学校 渡辺 円 前校長 記)



竹の塚小 3 年 小島彩由佳 作

足立区立第十三中学校

登下校 毎日通うこの道に
 いつのまにやら スマイリーフェイス
 二年 伊藤 愛華

放課後の わたしの姿 のぞいてる
 ノートの端のぎざぎざの窓
 三年 市川 美憂

二年前とは見え方が 遠くなった
 下校途中の花畑運河
 三年 前田 花

鳥たちが 集まる木から 私には
 聞こえる彼らのひみつの話
 三年 前田 花

中学生短歌コーナー

民生委員・児童委員宛 **災害時一人も見逃さない運動**



よろしくおねがいたします



新社会福祉協議会会長

中田 貢弘

この度、社会福祉協議会の会長に3月2日付で就任させていただきました。

民生・児童委員協議会会長時は各委員に御支援御教導いただきました。この御力を糧として社協業務に邁進していきたいと思っております。

御承知のように、社協は、昭和30年に民生・児童委員と有識者の方々によって立ち上げた住民主体の地域福祉を目指し活動している民間団体です。活動は、会費や御寄付等々で運営されています。

どうか活動の主旨を御理解いただき一人でも多くの参加と御協力をお願いし御挨拶といたします。



新社会福祉協議会事務局長

日比谷 松夫

4月に社会福祉協議会事務局長に就任しました。平成20年3月に、8ヵ月間の福祉管理課長を離れて以来の、民生・児童委員の皆様との再会になります。来年は、社協も私も60歳を迎えますので、中田社協会長のもと、初心に帰って社協の仕事で汗をかいていきたいと思っております。特に、現場からの視点と当事者意識を持った仕事を大事にします。宮崎連合会長をはじめ、民生・児童委員の皆様には、ご指導のほどよろしくお願い致します。

お世話になりました



前社会福祉協議会会長

鈴木 恒年

去る3月1日足立区社会福祉協議会会長を退任しました。

在任中、民生・児童委員の皆様から力強いお支えを頂き感謝致しております。後任には中田貢弘氏が就任しました。私同様のご支援賜りますようお願い申し上げます。

本格的な少子高齢社会を迎え、福祉に関わる需要は多様化し増大しております。

足立区における地域福祉の推進のため、皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げ退任の挨拶と致します。



前社会福祉協議会事務局長

中川 秋美

民生・児童委員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび足立区を退職いたしました。お陰様で、福祉管理課長、足立区社会福祉協議会事務局長と最後の4年間を充実して過ごさせていただきました。ありがとうございます。我がことの福祉、一人ひとりの名前呼び合える地域づくりに死ぬまで元気に携わろうと思っております。お元気で。

編集後記

花から緑へ。
万物にエネルギーが充ちています。
新しいメンバーも加わって広報委員会が動き始めました。
先輩方の育んできた確かな伝統とフレッシュな感性と。

日々の活動の中でそれぞれを融合させながら、心をつなぎ想いを届ける広報紙にしていけたらと思っています。
ご愛読ありがとうございます。これからも宜しくお願ひいたします。
(竹の塚地区 小島 千恵子 記)

○小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、
第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。

○皆様の原稿を募集いたします(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 11月1日

広報委員会	委員長	秋本 雅信	副委員長	数下 奈穂美	書記	鶴田 晴久	会計	金子 みどり	編集	小島 千恵子	レイアウト	木内 信雄	校正	江川 明美	編集委員	齋藤 祐子	山崎 秀夫	田中 礼子	渡邊 進子	櫻井 春子	森原 稔子	福井 潤子	坂井 まさ子	丸山 恒雄	校正委員	秋葉 千秋	山本 滝子	志賀 口博人	久保 幸子	福岡 佳須子	戸張 光子	西野 いちよ	高橋 和枝
	委員	秋本 雅信	数下 奈穂美	鶴田 晴久	金子 みどり	小島 千恵子	木内 信雄	江川 明美	齋藤 祐子	山崎 秀夫	田中 礼子	渡邊 進子	櫻井 春子	森原 稔子	福井 潤子	坂井 まさ子	丸山 恒雄	秋葉 千秋	山本 滝子	志賀 口博人	久保 幸子	福岡 佳須子	戸張 光子	西野 いちよ	高橋 和枝								